

グロリオサ切り花の輸出のための輸送方法



新聞紙包装(40本/箱)



減圧密封包装(60本/箱)



(前処理)	水	水	水	水	水	水	水	20%
(包装方法)	新聞	減圧						
(輸送中処理)	水	水	6%	6%	6%	6%	6%	6%
(輸送後処理)	水	水	水	2%	4%	6%	8%	6%

図 上海への輸出シミュレーションでのグロリオサ切り花の様子

注) 15~20 で4時間前処理後、輸送シミュレーションとして15 で5日間暗黒条件下で貯蔵後、25の花持ち試験室で4日間管理した後に調査。図中の%はショ糖濃度。新聞紙で巻いたもの(慣行)、減圧は減圧密封包装を示す。

J A高知市では、平成13年からグロリオサ切り花の海外輸出を行っています。これまで、輸送コストを下げるために切り花を新聞紙で巻いて1箱入り本数を増やしていました。しかし、この方法では入り本数を40本以上に増やすことは困難でした。また、上海への輸出では、輸送に5日程度を要するため輸送中に花の老化がすすみ、観賞期間が短くなることや、花色が本来の色より薄くなる等の課題が出てきました。

そこで、当センターではJ Aと協力して、こうした課題の改善に取り組んでいます。1箱入り本数は、切り花をポリエチレン製の

袋に入れ、減圧密封包装して容積を減らすことで60本まで増やすことができました。

また、上海への1月輸出を想定したシミュレーションでは、前処理にショ糖液処理を行わなくても、減圧密封包装した切り花に輸送中と輸送後に6%以上のショ糖液を給液処理することで花色やボリュームを改善し、老化を抑えて花持ちをより長くすることができました(図)。

今後は、暖かい時期の輸出や、シンガポール等への輸出も想定した試験を実施する予定です。

(花き担当 二宮千登志 088-863-4918)